

一般質問

・消防団組織再編計画の現状について



植田浩之

問

社会情勢の変化に伴い、消防団への入団者の確保が厳しいなか、消防団組織再編計画が2025年度に向け進められています。今後、消防団の分団としての枠組みは、地域方面隊を基本とした8分団体制に再編すると消防団組織再編成計画の中で示されています。

また、消防団組織再編計画の策定趣旨に「社会情勢の変化に伴い、消防団を取り巻く環境は大きく変化し、団員数の確保が難しく消防団活動を十分に果たせなくなる」とが懸念される。本計画は地域防災の中核を担う消防団組織が、消防団を取り巻く環境の変化にも耐え得る組織の再編に向け策定するものです。」とあります。

このような中、消防団員の意見や考えを把握し、今後の活動や団員の処遇などの資料に役立てることを目的に、消防総務課で現役の団員に対してアンケート調査を行ったと聞いています。このアンケートを受け、今後の消防団のあ

り方についてどのような考えか市長にお伺いします

答

「消防団組織再編計画の現状について」は新野地区、朝比奈地区及び比木地区の部制削減に向けての調整や白羽・御前崎地区の分団統廃合など、計画の前倒しに取り組んでいます。また、団員アンケート調査については、消防団活動でやりがいのあると思う活動として、消火活動や火災を想定した放水訓練などの回答があった一方、負担となっている活動として、約3分の2以上の団員が査閲大会と大会に向けての訓練及び出初め式や入退団式などと回答がありました。今後、本調査結果を踏まえ、待遇改善や団員の負担になっている査閲大会や訓練などについては、環境の変化に合わせて、団員の負担軽減を図るとともに、機能別団員制度においても、各地域の実情に合わせ、柔軟に対応することにより、消防団員の確保につなげていきます。

一般質問

・住民投票について



阿形 昭

問

令和元年12月8日に実施された産廃施設建設を問う住民投票。直接請求による県内初の住民投票でした。非常に価値あることで、究極の民主主義だと思えます。御前崎市の歴史に刻まれる大きな出来事です。

令和元年6月27日、市長は住民投票の条例案に賛成の意見を付けて市議会6月定例会に提出しました。その時の思いを伺います

答

多くの市民が、産廃問題に高い関心を持っていることが明らかでした。産廃施設に対しての不安や経緯に対する不信任など、様々な市民の思いも踏まえ、本条例案に賛意を示しました。

問

浜岡原発再稼働は、市の将来を左右する最重要事項です。住民合意が欠かせません。そのためには、住民投票が必要です。住民投票をすれば、再稼働について、市民は一生懸命に考えます。市民が御前崎市の将来について考えることになるのです。再稼働に

答

原発を含めて、エネルギー政策は国民の経済活動を支える国幹であり国策です。そのようなことに住民投票はそぐいません。市民に対して説明会を開き、最終的には議会制民主主義にのっとり、議会の判断を仰ぎながら方向性を出していきたいと考えています。

